

用語解説

用語解説

(五十音順)

No.	読み	語句	解説
1	あいさっと	ISUT	「Information Support Team：災害時情報集約支援チーム」の略称で、大規模災害時に被災情報等のあらゆる災害情報を集約・地図化・共有して、自治体等の災害対応を支援する現地派遣チームのこと。
2	あいおーていー	IoT	「Internet of Things (モノのインターネット)」の略称で、家電、自動車、ロボットなどあらゆるものがインターネットにつながり、情報をやりとりすること。
3	えこでいーあー ーるあーる	Eco-DRR	「Ecosystem-based Disaster Risk Reduction：生態系を活用した防災・減災」の略称で、グリーンインフラの概念の中でも特に防災・減災に注目し、地域において防災・減災対策を実施・検討する際に、自然災害に対して脆弱な土地の開発を避け、人命や財産が危険な自然現象に暴露されることを回避するとともに、生態系の持続的な管理、保全と再生を行うことで、生態系が有する多様な機能を活かして災害に強い地域をつくるという考え方のこと。
4	おーいーしー えむ	OECM	「Other Effective area-based Conservation Measures」の略称で、国立公園などの保護地区ではない地域のうち、生物多様性を効果的かつ長期的に保全し得る地域のこと。
5	おーふんいの べーしょん	オープン イノベ ーション	企業の内部と外部のアイデアを組み合わせ、「革新的で新しい価値＝イノベーション」を創り出すこと。
6	おーふんで た	オープン データ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、①営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、②機械判読に適したもの、③無償で利用できるもの、といういずれの項目にも該当する形で公開されたデータのこと。
7	かーぼんにゆ ーとらる	カーボン ニュート ラル	温室効果ガスの人為的な「排出量」から、植林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。
8	かーぼんおふ せっと	カーボン オフセッ ト	自らの日常生活や企業活動等による温室効果ガス排出量のうち削減が困難な量の全部又は一部を、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減や森林の吸収等をもって埋め合わせる活動のこと。
9	かいしつりぐ にん	改質リグ ニン	日本固有の樹種「スギ」から取り出したリグニン（木材の約3割を占める主要成分の一つ）を原料として開発された、耐熱性等の機能と加工性を併せ持つ素材のこと。化石資源由来プラスチック等の代替に資する木質系新素材として、自動車の内外装品など様々な利用が期待されている。
10	かすみてい	霞堤	洪水時に堤内地に洪水の一部を流入させ、下流への流量を低減する役割を果たす不連続な堤防のこと。
11	ぐりーんいん ふら	グリーン インフラ	自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方のこと。米国で発案された社会資本整備手法で、我が国でもその概念が導入されつつある。
12	さーていばい さーてい	30by30	令和12年（2030年）までに陸域と海域の30%以上を保全することを目指す世界目標のこと。生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」の主要な目標の一つとされている。
13	さてらいとお ふいす	サテライ トオフィ ス	住近接を目的とし、都市部にある本社とデジタル通信・ファクシミリなどによって情報交換を行うオフィスのこと。

用 語 解 説

No.	読み	語句	解説
14	さんぎょうそ うぞうりーで いんぐぞーん	産業創 造リー ディン グゾー ン	地域が持つ資源など、そこにしかない強みを生かしながら、フードテックやアートとテクノロジーの融合など、国内外から注目されるテーマを掲げ、イノベーションに取り組む企業の集積を図り、次代の産業を創出する拠点づくりを目指すもので、その効果を府内全域に波及させていくことで均衡ある発展を推進するもの
15	しるくてきす たいる	シルクテ キスタイル	天然繊維であるシルク(絹)に染めと織りの技術を活用したテキスタイル(布生地)のこと。
16	しんりんゆら いじえいくれ じっと	森林由来 Jクレジ ット	省エネルギー設備の導入や再エネの利用によるCO ₂ 等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO ₂ 等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度のこと。
17	すたーとあつ ぷえこしすて む	スタート アップエ コシステ ム	スタートアップをサポートする多様な人材や組織が相互に結びつきながら活動することで、その中からスタートアップが次々と立ち上がり、それがまた優れた人材・技術・資金を呼び込み、発展を続ける仕組みのこと。
18	すぽーつあん どうえるねす	スポーツ &ウエル ネス	スポーツや運動を通して、身体的・精神的な健康を維持・増進すること
19	ぜろえみっし よんしゃかい	ゼロエミ ッション 社会	ある産業の製造工程から出る廃棄物を別の産業の減量として利用することにより、廃棄物の排出(エミッション)をゼロにする循環型産業システムが形成された社会のこと。
20	ぜろかーぼん ちいき	ゼロカー ボン地域	2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門(家庭部門及び業務その他部門)の電力消費に伴うCO ₂ 排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてそのほかの温室効果ガス排出削減についても、我が国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域のこと。
21	ちゃれんじし よつぷ	チャレン ジショッ プ	商店街の空き店舗等を、将来の出店を希望する新規開業者等に対して一定期間貸し出すこと。
22	でいーえつく す	DX	「Digital Transformation(デジタルトランスフォーメーション)」の略称で、ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
23	でいーえむお ー	DMO	「Destination Marketing/Management Organization」の略称で、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役としての役割を果たす法人のこと。
24	でじたるでば いど	デジタル デバイド	デジタル技術を扱うことができる人とできない人との間に生じる格差のこと。
25	ないすいは らん	内水の氾 濫	堤防で守られた内側の土地(人が住んでいる場所)の水を「内水」と呼び、大雨などにより内水の水はげが悪化し、建物や土地・道路が浸水すること。
26	にちいききよ じゅう	二地域居 住	主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点を設ける暮らし方のこと。
27	ねいちゃーぼ じていぶ	ネイチャ ーポジテ ィブ	自然の損失を止め回復軌道に乗せること。
28	のうそんがた ちいきうんえ いそしき	農村型地 域運営組 織	複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のこと。

用 語 解 説

No.	読み	語句	解説
29	のうちちゆう かんかんりき こう	農地中間 管理機構	各都道府県に一つ設置された農地の利用権設定を行う機関のこと。市町村が策定した農業振興や農地利用に関する計画を実現するために、農地の借受けや貸付けを行っている。
30	びおとーぷ	ビオトー プ	本来、生物が互いにつながりを持ちながら生息している空間を示す言葉だが、特に、開発事業などによって環境の損なわれた土地や都市内の空き地、校庭などに造成された生物の生息・生育環境空間を指して言う場合もある。
31	ふーどてつく	フードテ ック	世界的に健康志向や環境志向等、食に求める消費者の価値観が変化していること等を背景に、生産から流通・加工、外食、消費等へとつながる食分野の新しい技術及びその技術を活用したビジネスモデルのこと。
32	ぶるーかーぼ んせいたいけ い	ブルーカ ーボン生 態系	海洋生態系に取り込まれた炭素（ブルーカーボン）を隔離・貯留する、海草藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林等の海洋生態系のこと。
33	まいくろつー りずむ	マイクロ ツーリス ム	自宅から1～2時間程度の移動圏内の「地元」で観光する近距離旅行の形態のこと。
34	みっしんぐり んく	ミッシン グリンク	本来、「生物の進化・系統において、化石生物の存在が予測されるのに発見されていない間隙」を意味するが、転じて、この計画上では、幹線道路などの交通ネットワークの欠落区間のこと。
35	めたばーす	メタバ ース	インターネット上の仮想空間において、様々な領域のサービスやコンテンツが生産者から消費者に提供される場のこと。
36	めんげんふか	面源負 荷	市街地や農地などのように汚濁発生源と流域の境界が不明確で、一定の面積を設定した上でないと算定できない汚濁負荷のこと。
37	もでるふおれ すとうんどう	モデルフ ォレスト 運動	森林における自然環境や生物多様性を、社会経済とのバランスを図りながら、サステイナブル（持続可能）な方法で管理するための取組のこと。
38	ゆにばーさる でざいん	ユニバ ーサルデ ザイン	年齢、体格、能力、性別、国籍などの違いにかかわらず、全ての人安心・安全で利用しやすいように、建物、製品、サービスなどをデザインすること及びそのプロセスのこと。
39	りかれんとき ょういく	リカレ ント教育	学校教育からいったん離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくための社会人の学びのこと。
40	りだんだんし ー	リダン ダンシー	「冗長性」や「余剰」を意味する語だが、この計画上では、自然災害などによる障害発生時に一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、あらかじめ交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されたりしているような性質のこと。
41	りもーとせん しんぐ	リモート センシ ング	電磁波、重力、磁力、音波などを利用して、離れた位置から直接触れずに、目的とする対象物を調査・解析する技術のこと。近年では、人工衛星に専用のセンサを搭載し、地球を観測する衛星リモートセンシングが広く利用されている。
42	ろーかるえす でいーじーず じぎょう	ローカル SDGs 事業	SDGs とは「Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標」のことであるが、ローカル SDGs 事業とは、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業のこと。
43	ろくじさんぎ ょうか	6 次 産 業 化	1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、農山漁村の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出し、農山漁村の所得の向上や雇用の確保を目指す取組のこと。